

ニプロシリコーン経腸栄養カテーテル

再使用禁止

＊【警告】

＜使用方法＞

- 栄養剤の投与及びフラッシュ操作の際、無理な抵抗を感じたら操作を中止すること。[チューブ内に詰まりが生じているおそれがあり、過剰な圧力を加えることによりチューブの破裂、破損が生じ、チューブ断片が胃内等に残存するおそれがある。]
- チューブの詰まりを開通させるためには容量50mL以上のシリンジを用い、無理な加圧操作は行わないこと。また、開通が困難な場合は新しいチューブと交換すること。[無理な加圧操作の繰り返しや容量の小さいシリンジを使用した際にはチューブ内圧が上昇し、チューブの破裂、破損が生じ、チューブ断片が胃内等に残存するおそれがある。]

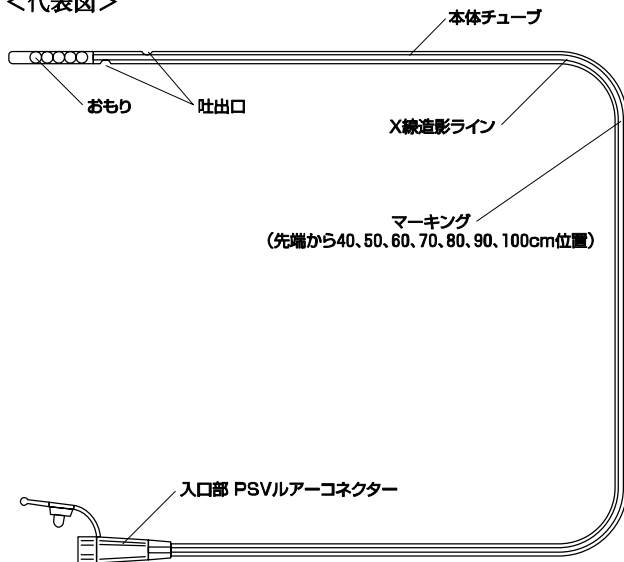
【禁忌・禁止】

- 再使用禁止
- 動・静脈輸液への使用禁止
- ＊○本品は経管栄養法による栄養剤投与用のチューブであるため、その他の薬剤等の投与は行わないこと。[非水溶性の錠剤を粉砕処理しての投与又は顆粒剤、細粒剤等の投与によりチューブが閉塞するおそれがある。]

【形状・構造及び原理等】

本品は、経腸栄養専門に用いるカテーテルであり、先端部に留置用のおもりを有するカテーテルチューブとコネクタからなる。

＜代表図＞



＜材質＞ チューブ：シリコーンゴム
おもり：ステンレス
PSVルアーコネクタ：ポリ塩化ビニル（可塑剤：フタル酸ジ-2-エチルヘキシル）

【使用目的、効能又は効果】

- 滅菌済みであるので、そのまま直ちに使用できる。
- 主に成分栄養及び経腸栄養などを行うため経鼻的に投与し、胃・空腸留置されるものである。

○標準的な強度

チューブ外径 (Fr)	チューブの引張強度 (N)	チューブとコネクタの接着強度 (N)
3～5	2.5以上	4.9以上
6～8	4.9以上	
9～12	9.8以上	

【操作方法又は使用方法等】

- ＊本品はディスポーザブル製品であるので、1回限りの使用で使い捨て、再使用しないで下さい。
- 1. 鼻腔より挿入し、先端を胃又は空腸に留置します。
- ＊2. X線透視によりカテーテルの留置位置及びねじれないことを確認して下さい。
- ＊3. 経腸栄養用輸液セットなどに確実に接続し、経管栄養法により栄養補給を行います。
- 4. 栄養剤の投与を中断する時や再投与の前後には、5mL～10mLの水でチューブを洗浄します。
- 5. 使用しないときは、入口キャップを閉じておきます。
- ＊＜使用方法に関連する使用上の注意＞
- 1. 使用前に、チューブのサイズや形状が挿入部位に適合していることを確認して下さい。
- 2. 他の医療機器と併用する場合は、確実に接続又は取り付けられていることを確認して使用して下さい。
- 3. 接続部への薬液等の付着に注意して下さい。[接続部の緩み等が生じる可能性があります。]
- 4. チューブ挿入時は鼻腔等挿入する部位の粘膜への損傷に十分注意して下さい。
- 5. チューブ挿入に抵抗がある場合は、チューブを抜いて、原因を解消した後、もう一度挿入直して下さい。
- 6. チューブを挿入する際は、挿入部位への入れすぎに注意して下さい。[チューブを抜去できなくなる可能性があります。]
- 7. コネクタにキャップをする際は、キャップがコネクタに確実にはめ込まれていることを確認して下さい。[キャップが外れることにより液漏れが発生する可能性があります。]
- 8. チューブを抜去する際は、ゆっくりと引き抜いて下さい。[粘膜損傷を引き起こす可能性があります。]

【使用上の注意】

重要な基本的注意

- 包装が破損、汚損している場合や、製品に破損等の異常が認められる場合は使用しないこと。
- ＊○本品を使用するにあたり、目的とする製品であることを確認すること。
- ＊○併用する医薬品及び医療機器の添付文書を確認後、それぞれの使用方法、使用上の注意に従って使用すること。
- ＊○脂溶性の医薬品・栄養剤（ミルク、母乳を含む）等では、ポリ塩化ビニルの可塑剤であるフタル酸ジ-2-エチルヘキシルが溶出するおそれがあるので注意すること。
- 患者がせきをするときは、チューブが気管に入った可能性があるため、このような疑いがある場合はチューブを一旦抜いてから、患者が落ち着くのを待って、もう一度挿入直すこと。
- 気管内装置が装着されている場合は、チューブが気管内に入りやすくなるため注意すること。
- 挿入中又は意識のない患者、咬咽反応のない患者、衰弱した患者など高リスクの患者の場合はX線下による確認により挿入すること。
- ＊○あらかじめ接続部に緩みや液漏れがないことを確認してから使用すること。使用中は本品の破損、接続部の緩み、空気混入、液漏れ及び詰まり等について、十分注意すること。
- ＊○チューブが折り曲げられたり引っ張られた状態で使用しないこと。

- * ○過度に引っ張るとチューブが抜ける可能性があるので注意すること。
- * ○チューブを鉗子等でつまんで傷をつけないように、さらに、はさみ等の鋭利なもので傷をつけないように注意すること。〔液漏れ、空気混入や破損が発生する可能性がある。〕
- * ○チューブとコネクター等の接続部には、過度に引っ張る、押し込む、折り曲げるような負荷を加えないよう注意すること。〔チューブの抜け、破損、伸び等が生じる可能性がある。〕
- * ○チューブ挿入時には、鼻甲介等及び鋭い器具等でチューブに傷をつけないよう注意すること。〔液漏れ、空気混入や破損が発生する可能性がある。〕
- * ○コネクターを接続する場合は、過度な締め付けをしないこと。〔コネクターが外れなくなる又は、コネクターが破損し、接続部からの液漏れ、空気混入が生じる可能性がある。〕
- * ○経管栄養剤注入後は必ずフラッシュを行うこと。
- * ○体動でねじれると流路が閉塞する可能性があるので注意すること。
- * ○チューブ留置の際には以下の事項を順守すること。
 - ・チューブを挿入しすぎた状態で留置しないこと。〔粘膜損傷による胃出血、胃穿孔等が発生する可能性がある。〕
 - ・留置中は体動等によりチューブがずれないようにしっかりと固定し、定期的に挿入位置、挿入深度、チューブの迷走、外れ及び閉塞等について確認すること。
 - ・自己抜去を防止する対策を施すこと。〔自己抜去により、チューブ破断、粘膜損傷が発生する可能性がある。〕
- * ○鼻腔、咽頭、喉頭、食道、胃粘膜等への損傷に十分注意すること。
- * ○接液部を汚染させないこと。
- * ○使用期限を過ぎたものは使用しないこと。
- * ○包装を開封したら直ちに使用し、使用後は感染防止に留意し安全な方法で処分すること。
- * ○長期間の経腸栄養投与を実施する場合は、1週間で交換すること。

【貯蔵・保管方法及び使用期間等】

1. 貯蔵・保管方法
水濡れに注意し、直射日光及び高温多湿をさけて保管すること。
2. 有効期間・使用の期限
外箱の使用期限欄を参照のこと(自己認証による)。

【包装】

15本／箱

*【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称及び住所等】

製造販売(お問い合わせ先)

ニプロ株式会社

大阪市北区本庄西3丁目9番3号

電話番号：06-6372-2331(代表)

製造

ニプロ株式会社



ニプロ株式会社